

(第一類 第四號)

衆議院第十三回国会法務委員会議録 第

昭和二十七年四月十五日(火曜日)

午後零時十四分開議  
出席委員

理事田嶋 好文君 理事田万 廣文君

出席政府委員	佐竹	正男君	高木	安部
	晴記君	勝君	眞鍋	像吾君
	充君	西大	松吉君	
	加藤	佐竹	山口	弘君
			吉田	良作君
			田中	好一君
			堯平君	安君

検事(民事局長) 村上 朝一君  
委員外の出席者

専門員 村教三君  
専門員 小木貞一君

### 本日の会議に付した事件

日本国とアラブ大公国との間の完全保障条約第三条に基く行政協定に伴う民事特別法案（内閣提出第一四

○書

○佐藤義典長 これより会議を開きま  
す。

日本国とアメリカ合衆国との間の安全保障条約第三条に基づく行政協定に伴

、民事特別法案を議題といたします。本案を討論に付します。討論の通告が

ありますので、これを許します。鐵治  
長作君。

**小坂義一** 私は自由党を代表しまして、原案に賛成の意を表するものであ

本法の根本は、国家賠償法と同様の  
うます。

ことを、駐留軍において行われたる際

第一類第四号 法務委員會議錄第三十三號 昭和二十七年四月十五日

五七二

もやろう、かような規定でありますから、国民の側から見まするならば、当然のことであります。ただ日本国の方務員が個人に損害を與えたときと連まして、外国の駐留軍が損害を與えたる事項に対して、日本国が責任を負うて、というところに相当議論はあるのです。りますが、安全保障条約を締結して、それに基いてかような規定ができるましたる以上、また今日日本の國の立場から考えましても、この条約に従うる外にないでありますから、これにおいていまさら議論をしてみてもよはないものと考えるわけであります。それゆえにわれくは、その根本趣旨においてこれに賛成せざるを得ないわけでございまして、あまり議論をせないで、これはのむべきものと、か上に感じております。

ておりません。従いまして政府並びに與党的主張のごとく、行政協定が有効だといふ議論に対しましては、きわめて強力な疑問と反対論があるのであります。われわれは行政協定の効力については、これを国会において審議する。その審議を求める決議案が否決されたとされないにかかわらず、この行政協定はわれわれの立場から申しますと、いまだ効力を発生しておらないものであると言わざるを得ないのです。この行政協定はなるほど国会の承認を経ました安保条約に関連をする協定でありますけれども、いわゆる安保条約が承認されたからといって、その第三条に関連をすること行政協定の有効、無効ということは、別個の問題として考えなければならぬ問題であると想うのであります。何とならば、安保条約第三条は、合衆国兵力の配備を規律する条件は、両国政府間の行政協定によつて定めるというきわめて漠然たる規定にすぎないのであります。

ではないと思うのであります。かのように意味合いから申しますと、かくのとく国の主権を制限し、また国民の権利義務に対して重大な影響を與えておる行政協定そのものが、国会の承認を経ない間は有効に成立しておるものとは決して考え方得られないのです。従いましてこの行政協定といふものは、その行政協定を締結いたしました吉田政府という限定された政府の責任はいざ知りませんが、永久に続くところの日本国並びに日本国民が、この行政協定に従わなければならぬかどうかということは、これは大いなる疑問と重大なる問題を含んでおるものと想るのであります。かような重大な問題を含んでおればこそ、われ／＼はただ單に政府の協定に依存せしめるだけではなくて、日本国民の認容と了解の上に依存せしめなければ、今後の日本独立後におきますところの両国間のはんどうの協調を期することはできないと思ふのであります。かような意味を考えるがゆえに、この行政協定を基礎としておるところのこの法律もまた、こんな法律をつくつてもまだあるとうことが、まず根本的に言われ得る問題であると思うのであります。

す。第一点は、この法律によりますと、第一条に、「安全保障条約に基き日本国内にあるアメリカ合衆国の陸軍、海軍又は空軍の構成員」、こういうふうにつておるのであります。が、安全保障条約並びに行政協定の前文によりますと、「日本国内及びその附近における配備を規律する」ということになつております。そういたしますと、この法律は日本国内に安保条約に基いて駐留する軍隊については適用があるといふことは明確であります。が、安保条約に基いて日本国内ではなくして、その附近に駐留するところの軍隊が日本の領域内に入つて参りまして、その軍隊の構成員が、この第一条に規定されておるような他の要件を備えて国民に損害を與えた場合に、その損害の賠償といふことがこの法律によつて規定されるかどうかということはきわめて不明瞭であり不明確である。むしろこの法律の正面からいたしまするならば、さうな場合は適用されないというふうに解釈せざるを得ないがとき観を呈するのであります。私はこの点におきましても、きわめて不明確であつて、国民の権利義務を擁護する点において、きわめて欠ける点があると存ずるのであります。

務を負うと、いうことに相なると思うのであります。この法案によりまするに、アメリカ合衆国の駐留軍隊の構成員が違法に他人に損害を加えた場合、日本以外の国の軍隊の構成員が違法に他人に損害を加えた場合においてすら、日本の政府がその他の外国人に対して責任を負わなければならないという規定に相なつておるのであります。これで、これらの点におきましても、われわれとしては解しがたい点があるといふわけではありません。また日本の国がこの法律によりまして日本国民並びにいわゆる第三国人に対して賠償の責任を負つた場合には、その賠償いたしました賠償金につきまして、アメリカとの間にいかなる分担を行ひうのか、この点につきましては行政協定において何ら定められておりません。いかなる割合においてその分担をせねばならないかということがきめられないうちには、かような法案を審議するということ 자체が、われくにとつてはまことに遺憾にたえないところであります。まずそれをきめあてもらいたいのです。

つては全然適用なしといふ政府のお答え  
であります。この点についてはきわ  
めてわれ／＼は疑問があると思うので  
あります。が、もしさういう場合に適  
用なとすれば、その行動によつて起  
された損害に対しましては、日本国民  
はきわめて不利益な立場に立たざるを  
得ないのであります。そういう場合に  
おいて、日本の國民がどのように権利  
を擁護されるものであるか、また国連  
軍としての性格を持つたがゆえに、ア  
メリカ軍としての性格を喪失するもの  
であるかどうか、そういう点が明確に  
されておらないかような法案に対して  
も、われ／＼は反対の意思を表明せざ  
るを得ないのです。

以上列挙いたしました諸理由により  
まして、わが党はこの法案に対し反  
対の意思を表明する次第でございま  
す。(拍手)

○佐瀬委員長 田万広文君。

○田万委員 私は日本社会党を代表い  
たしまして、ただいま論議せられてお  
りまする法案に対して断然反対の意思  
を表明するものでございます。

大体その要旨につきましては、ただ  
いま改進党を代表されて反対討論に立  
たれました大西君の発言の中に、その  
言わんとするところは盡きておるよう  
に考えるのであります。が、私どもは御  
承知の通り、安全保障条約に対して  
も、実質的に安全保障条約といふ名前  
のごとき内容が盛られておらないきわ  
めて不安定な内容を多分に持つた条約  
であるということに対し、徹底的に  
反対いたしており、かつた行政協定  
に対してもその実質的な面から見て必  
ずしも満足すべきものではないといふ  
ので反対の態度をとつて今日に至つて

おるのであります。従いまして一貫して一貫しては反対の態度を表明せざるを得ないのには反対の態度を表明せざるを得ないののみならず、第一条によりましても、私どものきめて納得の行かない点は、「アメリカ合衆国の陸軍、海軍又は空軍の構成員又は被用者が、その職務を行つて日本国内において違法に他人に損害を加えたときは、」といふ文言がございます。違法に損害を加えたという場合であるならば、向うさんで当然責任を持つて損害賠償——向う側で負担してもらるべきが当然でなければならぬ。無過失責任の場合とはともかくとして、違法な行為によつてアメリカ軍の構成員あるいは被用者が日本人に対して與えた、日本国に対する損害しなければならないという理由ほど興えた損害といふものは当然向うが負担すべきものだ、違法においてなされたというその場合にあつてすらも、日本においてその損害を賠償——國が負担しなければならないといふ理由ほどにあるのか。私はこの一点からだけでも実質的な内容からいって反対をするといふのが日本人的な感情に合ひと思う。これを唯々諾々として賛成討論に立つという自由党の諸君の、私はその日本人的感覚の有無を疑わざるを得ない。このような意味におきまして、私どもはこの法案に対し徹底的に反対の意思を表明する次第であります。

とは、これはまつたくいわれる壳国的な態度が露骨に現われておると言わざるを得ない。とうていこうしたことではわれ／＼は承服することはできないのであります。

第二の点は、ここにこのように損害についてほ国が補償するという規定にはなつておりますが、しかしつづきに検討いたしますると、結局これは結論として賠償の場合はほとんどないと云ふことになるのであります。いわば空文に帰することになる。

そこですつとしさいに検討して参りたいのであります。第一にこれは駐留軍が損害を加えたときの規定であつて、國連軍といふものが損害を加えたような場合は、これは全然除外されてしまつてあります。しかも駐留軍なりや國連軍なりやは、朝鮮事変以来の実績に徴してもはつきりしない。だから政府の答弁によればその軍行動の目的によつて駐留軍なりや國連軍なりが判別できるということであるけれども、それはまったくただ文字上の判断であつて、實際にはそのなす行動は、この行政協定や安保条約等の精神に徴するならば、いざれが國連軍の目的であり、いざれが駐留軍の目的であるか必ずしもはつきりしない。従つて場合によつては駐留軍なりといふ看板で出て来る、場合によつては國連軍なりといふ看板で出て来る、その資政の選択は彼らの自由ということにならぬのであります。これはわれ／＼は今まで苦しめられたのであるのでありまするが、今駐留軍ではないところの占領軍として處罰を受ける。ところがわれ／＼が苦しい経験というのは、占領軍では

やはり占領軍の説教ということにすりかえて、占領目的阻害罪に問われていような次第で、だから都合のいいときには国連軍、また都合の悪いときは駐留軍とかつて名前を選択することができます。

第二点は、たとい駐留軍の場合でありましても、その駐留軍が演習等の軍行動をやる場合には、本法案には全然関係がない演習場によつて莫大の被害を日本国民に加えるであります。しかしよがら、そういうものについては一向おかまいなしといふことになつてゐるのであります。(「ノー／＼」) ノー／＼じやない、知りもせぬこと黙つておれ。今日までの実績に徴しましても、たとえば近海で演習をやる。もうすでに十四地区が演習場に指定されておつて、新たに十一箇所というものが指定されつつあるのであります。これらによる漁業場の損害といふものも、過去五箇年にさつと十八億といふように見積られてゐるが、こういうふうな損害について将来もますます損害が大きくなるに違ひない。これは從来はわざかのものを済金として終戦処理費の一部から出しておつた模様でありますが、今後はおそらく済金も何も出さないでいいという結果になるであります。この法案が通過いたしましたならば、もう済金などといふことも法律上は出さないでもよろしい、義務は何も

ないということになつて来るわけあります。單に漁場だけではございません。広い演習場があつちにもこつちにもある。それらによつてこうむる被害は甚に甚大であろうと想像されるが、しかしそういうものについては何らの賠償がないということに本法案ではなわけです。

三番目には、この土地や建物といふものについては、これが一体駐軍の設営上必要となつて收用する場合はどうするかということを政府に尋ねたところが、政府はこれについては原則としては民事上の政府と民間人との契約によつて、まず政府がこれを取つて駐留軍に提供するということである。ところが実際はそのような折合いはなかなかつかない。どうするかと聞いたところが、そのため強制收用法を今提案しているということです。

強制收用法を提案いたしております

ならば、多くはみな土地や建物等の收用はこの強制收用の手続によることになつてあります。そなつた場合にはもちろん損害、不服といふのは一般的には満足せしめることはできなといふ結果になるのであります。土地や建物はそれでも一應原則として民事上の契約によるということならまうするか。これは行政協定十二条や七条によつて駐留軍が直接に調達に当ることになつておりますので、何とも施すすべがない。もちろん形式上は実際軍と民間との自由契約といふ形ではありますけれども、彼我的力関係からあります。これは行政協定を結び、そうして日本に安全が保障されるというよなことを政府そのあそれでいいとしても、それ以外の物資あるいは労務といふもの調達はどうするか。これは行政協定十二条や七条によつて駐留軍が直接に調達に当ることになつておりますので、何とも施すすべがない。もちろん形式上は実際上程され、これからもまたどんく上程されて来ます。これが一貫して見ると、結局は平和にあらざる、戦

ればすぐわかる。そこでは資本家も困らされている。たとえば池貝自動車等の例によりますと、ひどくコストを引下げられて、最初の契約のコストさえも、でき上つたときにはうんと引上げて、純生産費に利潤としてはわずかに八%プラスして認めるだけであつて、日本の慣習上いろいろと必要とする、たとえば交際費とかいうよなものは一切認めないと云ふことで、資本家側も非常に困つておるのであります。また労働者に対しても、これは労働者は完全にその経営主と労働協約が結ばれておるにもかかわらず、軍命令だと称して、どんくと違法なる、すなわち日本の労働諸法を無視した首切りや彈圧が行なわれておる。このようにもうすでに実績が示しておるのであります。たとい形式上は自由契約といふことであつても、彼我的力関係によつて資本家も労働者もめちゃくちやにいためつけられ、えらい損害をこうむるということになると、そういう点について本法案は何らの補償を示しておらぬといふふうにどの点をつかまえてみましても、結局は補償するぞといふ国家補償の規定が掲げてあるけれども、実際はこれは実効を伴わないところの空文にすぎない。これは行政協定を結び、そうして日本に安全が保障されるといふよなことを政府その他の言ふらしておるので、国民に対しても何とかそのようにどまかしをしなければならぬといふので、本法案を可決すべきものと決しました。

○佐瀬委員長 佐竹晴記君。

○佐竹(晴)委員 本法案は、安全保障条約の範囲を逸脱する内容を有すると同時に、不平等不合理にして日本国民としてとうてい認容することのできない条項を含んでおりますので賛成いたしがたい、よつて反対いたします。

○佐瀬委員長 これにて討論は終局いたしました。本案を表決に付します。本案に賛成の諸君の御起立を願います。

〔賛成者起立〕

○佐瀬委員長 起立多数。よつて本案

は可決すべきものと決しました。

この際お詫びいたします。ただいま

議決いたしました法律案に関する委員会報告書の作成につきましては、委員

長に御一任願いたいと存じますが御異

議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○佐瀬委員長 御異議なければさよう

に導入する危険しこくなる安全保障条

約、さらにまたそれに基いて国民の

生活がよくなる、今度は独立になると

いうことを裝うためにいろ／＼とこう

いうふうな具体的な国内立法が行われ

ますが、いかんせん、具体的に国内立

法が行われるたびに最初の抽象的なご

まかし規定のメツキがほげて来る。平

和条約、安全保障条約の美辞麗句によ

つてかけられたメツキがほげて、こ

ういうふうな具体的な規定になるとの

つびきならぬごまかしが暴露されて来

るわけであります。本法案もその一つ

の顯著なる例であるわけです。かよう

な国民をだまかし、まつたく国民の生

活を破滅に導いて行くよなこういう

法案にわが党は断固反対するのであり

ます。

〔都合により別冊附録に掲載〕

〔参考〕

日本国とアメリカ合衆国との間の安

全保障条約第三条に基く行政協定に

伴う民事特別法案（内閣提出）に関する報告書

午後零時四十五分散会

争準備をするところの平和条約、それからまた、日本の安全を保障することでも何でもありはしない、戦争を日本に導入する危険しこくなる安全保障条約、さらにまたそれに基いて国民の生活がよくなる、今度は独立になると

いうことを装うためにいろ／＼とこう

いうふうな具体的な国内立法が行われ

ますが、いかんせん、具体的に国内立

法が行われるたびに最初の抽象的なご

まかし規定のメツキがほげて来る。平

和条約、安全保障条約の美辞麗句によ

つてかけられたメツキがほげて、こ

ういうふうな具体的な規定になるとの

つびきならぬごまかしが暴露されて来

るわけであります。本法案もその一つ

の顯著なる例であるわけです。かよう

な国民をだまかし、まつたく国民の生

活を破滅に導いて行くよなこういう

法案にわが党は断固反対するのであり

ます。

〔都合により別冊附録に掲載〕

〔参考〕

日本国とアメリカ合衆国との間の安

全保障条約第三条に基く行政協定に

伴う民事特別法案（内閣提出）に関する報告書

午後零時四十五分散会

争準備をするところの平和条約、それ

からまた、日本の安全を保障すること

でも何でもありはしない、戦争を日本

に導入する危険しこくなる安全保障条

約、さらにまたそれに基いて国民の

生活がよくなる、今度は独立になると

いうことを装うためにいろ／＼とこう

いうふうな具体的な国内立法が行われ

ますが、いかんせん、具体的に国内立

法が行われるたびに最初の抽象的なご

まかし規定のメツキがほげて来る。平

和条約、安全保障条約の美辞麗句によ

つてかけられたメツキがほげて、こ

ういうふうな具体的な規定になるとの

つびきならぬごまかしが暴露されて来

るわけであります。本法案もその一つ

の顯著なる例であるわけです。かよう

な国民をだまかし、まつたく国民の生

活を破滅に導いて行くよなこういう

法案にわが党は断固反対するのであり

ます。

〔都合により別冊附録に掲載〕

〔参考〕

日本国とアメリカ合衆国との間の安

全保障条約第三条に基く行政協定に

伴う民事特別法案（内閣提出）に関する報告書

午後零時四十五分散会

争準備をするところの平和条約、それ

からまた、日本の安全を保障すること

でも何でもありはしない、戦争を日本

に導入する危険しこくなる安全保障条

約、さらにまたそれに基いて国民の

生活がよくなる、今度は独立になると

いうことを装うためにいろ／＼とこう

いうふうな具体的な国内立法が行われ

ますが、いかんせん、具体的に国内立

法が行われるたびに最初の抽象的なご

まかし規定のメツキがほげて来る。平

和条約、安全保障条約の美辞麗句によ

つてかけられたメツキがほげて、こ

ういうふうな具体的な規定になるとの

つびきならぬごまかしが暴露されて来

るわけであります。本法案もその一つ

の顯著なる例であるわけです。かよう

な国民をだまかし、まつたく国民の生

活を破滅に導いて行くよなこういう

法案にわが党は断固反対するのであり

ます。

〔都合により別冊附録に掲載〕

〔参考〕

日本国とアメリカ合衆国との間の安

全保障条約第三条に基く行政協定に

伴う民事特別法案（内閣提出）に関する報告書

午後零時四十五分散会

争準備をするところの平和条約、それ

からまた、日本の安全を保障すること

でも何でもありはしない、戦争を日本

に導入する危険しこくなる安全保障条

約、さらにまたそれに基いて国民の

生活がよくなる、今度は独立になると

いうことを装うためにいろ／＼とこう

いうふうな具体的な国内立法が行われ

ますが、いかんせん、具体的に国内立

法が行われるたびに最初の抽象的なご

まかし規定のメツキがほげて来る。平

和条約、安全保障条約の美辞麗句によ

つてかけられたメツキがほげて、こ

ういうふうな具体的な規定になるとの

つびきならぬごまかしが暴露されて来

るわけであります。本法案もその一つ

の顯著なる例であるわけです。かよう

な国民をだまかし、まつたく国民の生

活を破滅に導いて行くよなこういう

法案にわが党は断固反対するのであり

ます。

〔都合により別冊附録に掲載〕

〔参考〕

日本国とアメリカ合衆国との間の安

全保障条約第三条に基く行政協定に

伴う民事特別法案（内閣提出）に関する報告書

午後零時四十五分散会

争準備をするところの平和条約、それ

からまた、日本の安全を保障すること

でも何でもありはしない、戦争を日本

に導入する危険しこくなる安全保障条

約、さらにまたそれに基いて国民の

生活がよくなる、今度は独立になると

いうことを装うためにいろ／＼とこう

いうふうな具体的な国内立法が行われ

ますが、いかんせん、具体的に国内立

法が行われるたびに最初の抽象的なご

まかし規定のメツキがほげて来る。平

和条約、安全保障条約の美辞麗句によ

つてかけられたメツキがほげて、こ

ういうふうな具体的な規定になるとの

つびきならぬごまかしが暴露されて来

るわけであります。本法案もその一つ

の顯著なる例であるわけです。かよう

な国民をだまかし、まつたく国民の生

活を破滅に導いて行くよなこういう

法案にわが党は断固反対するのであり

ます。

〔都合により別冊附録に掲載〕

〔参考〕

日本国とアメリカ合衆国との間の安

全保障条約第三条に基く行政協定に

伴う民事特別法案（内閣提出）に関する報告書

午後零時四十五分散会

争準備をするところの平和条約、それ

からまた、日本の安全を保障すること

でも何でもありはしない、戦争を日本

に導入する危険しこくなる安全保障条

約、さらにまたそれに基いて国民の

生活がよくなる、今度は独立になると

いうことを装うためにいろ／＼とこう

いうふうな具体的な国内立法が行われ

ますが、いかんせん、具体的に国内立

法が行われるたびに最初の抽象的なご

まかし規定のメツキがほげて来る。平

和条約、安全保障条約の美辞麗句によ

つてかけられたメツキがほげて、こ

ういうふうな具体的な規定になるとの

つびきならぬごまかしが暴露されて来

るわけであります。本法案もその一つ

の顯著なる例であるわけです。かよう

な国民をだまかし、まつたく国民の生

活を破滅に導いて行くよなこういう

法案にわが党は断固反対するのであり

ます。

〔都合により別冊附録に掲載〕

〔参考〕

日本国とアメリカ合衆国との間の安

全保障条約第三条に基く行政協定に

伴う民事特別法案（内閣提出）に関する報告書

午後零時四十五分散会

争準備をするところの平和条約、それ

からまた、日本の安全を保障すること

でも何でもありはしない、戦争を日本

に導入する危険しこくなる安全保障条

約、さらにまたそれに基いて国民の

生活がよくなる、今度は独立になると

いうことを装うためにいろ／＼とこう

いうふうな具体的な国内立法が行われ

ますが、いかんせん、具体的に国内立

法が行われるたびに最初の抽象的なご

まかし規定のメツキがほげて来る。平

和条約、安全保障条約の美辞麗句によ

つてかけられたメツキがほげて、こ

ういうふうな具体的な規定になるとの

つびきならぬごまかしが暴露されて来

るわけであります。本法案もその一つ

の顯著なる例であるわけです。かよう

な国民をだまかし、まつたく国民の生

活を破滅に導いて行くよなこういう

法案にわが党は断固反対するのであり

ます。

〔都合により別冊附録に掲載〕

〔参考〕

日本国とアメリカ合衆国との間の安

全保障条約第三条に基く行政協定に

伴う民事特別法案（内閣提出）に関する報告書

午後零時四十五分散会

争準備をするところの平和条約、それ

からまた、日本の安全を保障すること

でも何でもありはしない、戦争を日本

昭和二十七年四月十九日印刷

昭和二十七年四月二十一日發行

衆議院事務局

印製者 印 刷 厅